

電動シャッターによる事故に注意！

防火用や防犯用の電動シャッターは、学校やビルなどのほか、最近では住宅のガレージなどにも設置されています。ボタン一つで開閉できる便利な電動シャッターですが、中には体を挟まれて死亡する事故も発生しており、使用する際には注意が必要です。

～事件事例～

- 下りて来るシャッターの下を通過して中へ入り、上着を持ってすぐに外へ出ようとしたが、シャッターが既に間近まで下りて来ていたため慌ててしまい、シャッターの真下で転倒し、そのまま下りてきたシャッターに胸部を挟まれてしまった。
- マンションにお住まいのお友達のところに遊びに来られた方が、マンション駐車場出入り口に設置されているシャッターの下に車を停止し、荷物を積んでいた際、シャッターが自動で降下してきたことで、車の屋根部と接触し、傷つけてしまった。
- 工場の作業員が倉庫に荷物を取りに行った際、入り口の電動シャッターを開けようと押しボタンスイッチを操作したところ、中間付近まで上昇したシャッターが一気に急降下した。幸い作業員に怪我はなかった。

※ 一般社団法人日本シャッター・ドア協会《重大事故を防ぐために》より抜粋
<http://www.jsd-a.or.jp/safety/prevention/index.html>

～事故防止のポイント～

- シャッターの下に立ち止まったり、座ったりしないようにしましょう。
予期せぬときにシャッターが下りてくることがあり、大変危険です。
- シャッターが動いているときは、その下を絶対に「くぐらない」、「くぐらせない」ようにしましょう。
- シャッターの動作中はそばを離れず、シャッターが停止するまで、周囲から目を離さないようにしましょう。

【管理者の方へ】

- 使用中のシャッターに安全装置が設置されていない場合には、安全確保のため、設置を検討しましょう。
- シャッターの異常の早期発見・事故防止のため、定期的に点検しましょう。

【関連情報】

- 一般社団法人日本シャッター・ドア協会《安全と安心のご提案》
<http://www.jsd-a.or.jp/safety/index.html>